

(様式)

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	クルマエビ
対象海域	—

クルマエビの閉鎖循環型陸上養殖試験の指導

県北広域本部水産課・永田 大生

【背景・目的】

閉鎖循環型陸上養殖は、養殖池や海面を利用する必要がなく、①場所に制約されにくい、②飼育水をろ過・循環するため排水がないことから、環境汚染が少なく、持続的生産が可能である。一方で安定した飼育技術が確立されていない状況にある。そこで、本年度は管内で試験養殖されるクルマエビの閉鎖循環型陸上養殖の生産技術開発の指導に取り組み、当システムでのクルマエビの生残と成長の状況を把握することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 現場指導

月日：令和2年(2020年)4月7日、5月20日、6月30日、7月31日、10月2日、10月6日、10月30日、11月20日、12月15日、令和3年(2021年)1月20日、2月15日 3月30日

場所：三加和温泉ふるさと交流センター(玉名郡和水町大田黒)

調査者：株式会社丸美屋(試験実施者)担当社員1~2名、水産課1名

調査方法：毎月1回25cm×25cmの方形枠を用いて、水槽内4~6カ所を枠取りし、クルマエビの生残数を調査した。併せて、飼育中の体重を測定した。

結果：4月に池入れした群は、8月に電気系統の故障による酸欠と思われる影響で全滅した。10月に池入れした群は、飼育密度が高く、試験開始後1ヶ月で約6割が減耗、12月にはビブリオ病を原因とする大量死が発生、3月の生残率は約4.8%の生残となった。なお、大量死発生以降のクルマエビの体重は増加傾向に転じ、特に餌の粒形を変更した3月以降増加した。

(2) 結果報告会の実施

日時：令和3年(2021年)2月15日、13:00~14:00

参加者：(株)丸美屋 担当社員2名、水産課1名

内容：一般的なクルマエビ養殖と比較して成長が著しく遅かったことから、次の4点の指導を行った。①適正な飼育密度の把握、②成長に伴う分養、③飼育環境改善のためのブラウンウォーターの維持、⑤体重に応じた粒形の餌の給餌。

【成果・活用】

試験実施者は、陸上閉鎖循環型のクルマエビ陸上養殖の難しさを理解した模様。なお、次年度は、大量死対策として池入れ時の尾数調整や成長対策として体重に応じた粒形の餌の給餌を実施する予定であり、水産課としても継続した指導を行っていく。

【達成度自己評価】

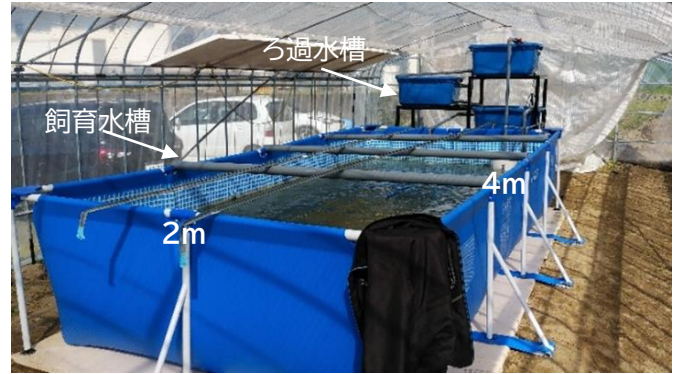
3 おおむね達成できたが取組に改善を要する等の課題も見られた(51%~75%)

(様式)

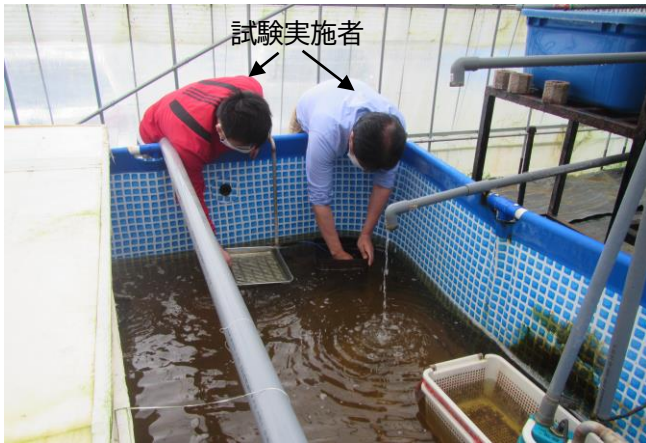
a)



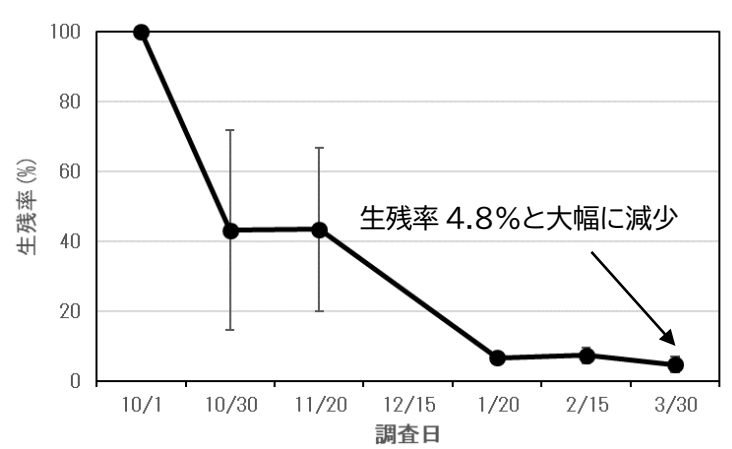
b)



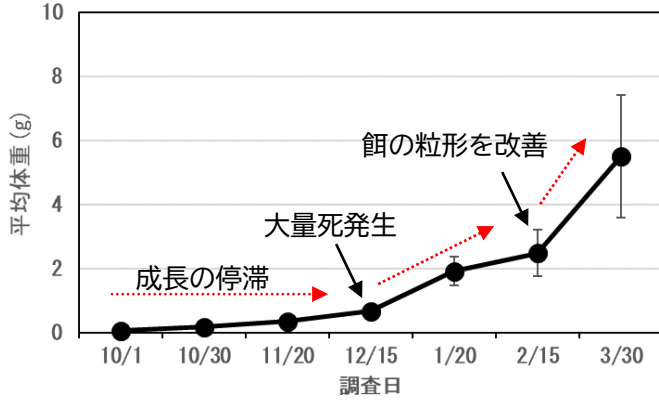
c)



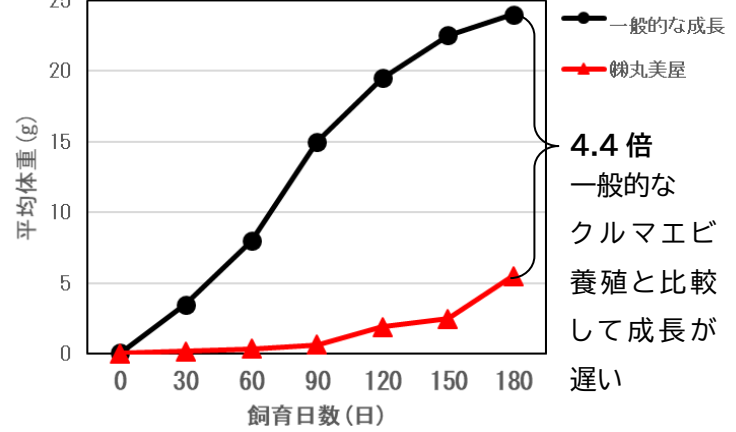
d)



e)



f)



g)



a) 試験実施場所

b) 飼育水槽

c) 試験実施者による杓取り調査

d) 推定飼育尾数の推移

e) 平均体重の推移

f) 一般的なクルマエビ養殖との比較

g) 飼育中のクルマエビ(令和3年(2021年)3月30日)